

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26 (10)	プランはADL面・健康面からの立案が多く、どのケースも似通っているため、例えば個別外出への思いや取り組んでいることなどをプランに入れ込むとより個別性の高いプランに出来るのではないのでしょうか。	個別性の高いケアプランを作成する。	担当職員にモニタリングをしてもらい、カンファレンスを密に行いながら、ケアプランに個別外出などを取り入れ、個別性の高いプランを作成する。	12ヶ月
2	33 (12)	3人看取りの貴重な経験をされているが、当ホームは介護の経験年数の少ない職員が少なくない。これまでの看取りを振り返り話し合う機会を持つことで職員に対する死の受け入れ・不安への対応などを含め、これまでの取り組みを活かされることを望みたい。	看取りに対する職員の対応を教育する。	介護の経験年数の少ない職員に対し、内部や外部研修に参加し、職員の看取りに対する対応を教育していく。またホーム会議などで職員間の話し合いの場を設け、職員の看取りに対応する不安などを取り除いていくよう教育していく。	12ヶ月
3	5 (4)	ホームに自動車がなく、公共交通機関も限られるため役所担当窓口に出掛けにくい事情がある。しかし事業所の取り組みや利用者の状況、地域の協力や支援については議事録に併せ情報提供の機会にされることが望まれる。	運営推進会議の議事録をその都度提出する。	運営推進会議の議事録に機関誌なども添えて、その都度役所の窓口まで出掛け提出し、役所との連絡を密にする。	12ヶ月
4	35 (13)	防火訓練時に声かけはしたが、地域の消防団の方の参加は得られていない。	町内の消防団の方に声かけをし、消防訓練に参加して頂けるようお願いをし続ける。	町内の消防団の方と消防署との日程調節をし、町内の消防団や地域の方にも消防訓練に参加してもらえるよう働きかけていく。	12ヶ月
5	6 ・ 7 ・ 8	身体拘束や高齢者虐待・権利擁護などに関する研修の頻度が少ないように思われる。	内部・外部研修をより多く参加する。	身体拘束や高齢者虐待・権利擁護などに関する研修の参加を多く持ち、常に職員教育に勤める。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。